

第5回杉並区行政評価検討委員会 次第

平成14年2月5日

午後4時 / 西棟6階第5・6会議室

1 開 会

2 議 事

(1) 今後の検討の進め方

(2) 政策評価システムについて

山本副会長

古川会長

横山副参事

(3) 質疑及び具体的検討

(4) その他

広報すぎなみ「政策指標アンケート特集号」について
次回の日程について

4 閉 会

配布資料一覧

- 1 山本副会長説明資料（当日配付）・・・・・・・・・・資料1
- 2 古川会長補足説明資料（当日配付）・・・・・・・・・・資料1 - 2
- 3 政策評価システム検討事例～秋田県の例より～・・・・・・・・・・資料2
- 4 政策評価システム検討の今後の進め方等・・・・・・・・・・資料3
- 5 第4回杉並区行政評価検討委員会の主な発言・・・・・・・・・・資料4
- 6 平成13年度杉並区事務事業評価のまとめ・・・・・・・・・・参考資料
- 7 杉並区公社等経営評価 2001・・・・・・・・・・参考資料

ホームページでは、資料1、資料1 - 2、資料3、資料4を掲載しています。

2002.2.5

評価システムの設計と運用上の留意点

山本 清

1. 設計上の課題

(1) 目的の明確化：説明責任の改善か、政策効果の向上か、財政の効率化か、職員の能力向上・意識改革かにより、評価の様式・内容が異なる。
静岡県の棚卸方式は基本的には内部管理の改善である。

(2) 指標の設定：Focused
Appropriate
Balanced
Robust
Integrated
Cost-effectiveness

(3) 目標値の設定：時系列データ以外に他自治体との比較可能性が必要。
最高(期待)・標準・最低の3水準を設定することが望ましい。

2. 運用上の課題

(1) 政策の改善：最終成果に関する指標以外に担当組織単位の内部管理として活動やプロセスの指標が必要。これは、内部の経営管理に使用する。どこをどのように改善するかを特定化しなければならない。論理モデルの精緻化と共有化。

(2) 資源配分への利用：事前に反映方式につき合意と明確化が必要。
機械的な利用と詳細検討の区分。
予算書の様式の改善(成果志向)

(3) 人事管理への利用：内部管理の指標を利用すべき(成果指標でなく)。
能力給部分でなく業績給部分と連動する。

(4) 住民との協働や参加への活用：対人サービスに限定した評価システムへの組み込み。
区民意識調査と評価は意味が異なる。
モニターとのギャップに注意。

2002.2.5

行政評価の制度設計について

古川 俊一

行政評価制度の構築にあたって、行政評価制度設計の前提や評価の種類、区民参加のありかた等について、下記の諸点に留意し議論を進めて行く必要があると考えます。

1. 制度設計の前提

行政評価制度設計にあたっては、次の から までの各事項（評価の前提条件である 4W）が決まらなないと、 のいかに制度を作り上げるか（結果としての 1H）が決まらない。

誰に（誰に報告、誰に責任 To whom For whom）

誰が（評価の主体 Who）

何を（What）

なぜ（制度的義務、政治的必要性、計画、予算編成 Why）

いかに（プログラム評価、業績測定、数理科学的、経営診断的、監視的等 How）

2. 評価の種類

評価の種類に関しては、次の点に留意する必要があります。

組織全体の目標達成の評価が業績測定。

個別に行うのは、分析又はプログラム評価。

選択的に行うのは、経営の観点からは疑問。しかし、個別事業の評価は、当該政策分野の改善には意味あり。

今後の方向は、経営システムとして進化させる志向が必要。

客観性は数量化で。数量化できない場合も明確に記述。

論理的思考と成果重視は公共経営の趨勢。

あわせてコスト意識はますます重要。

3. 区民参加のありかた（参加の誤謬）

行政評価制度における区民参加のありかたは、次の点に留意して考える必要があります。

区民重視と評価表の記載は、関係ない。（目的による）

内部管理志向なら、その観点でつくるべき。評価表を公開すると前提すべきかどうか。

むしろ年次業績報告書の形でわかりやすく。

政策評価システム検討の今後の進め方等

第2回行政評価検討委員会の資料（「検討のねらい（望まれる成果物）についての補足説明」）及び第3回、第4回の検討委員会での議論を踏まえて、今後の検討の進め方、杉並区における政策評価システムの目的や内容、ベンチマークの位置付け等について整理しました。

今後の行政評価検討委員会での政策評価システムの構築に向けて、議論の参考としていただきたいと考えております。

1. 政策評価システム検討の今後の進め方

(1) 第5回行政評価検討委員会において

行政評価システム構築に向け、具体的な内容について議論する。

（議事内容）

- ・ 政策評価システム事例の説明（岩手県の例ほか）
- ・ 質疑及び具体的検討
- ・ その他

なお、第5回検討委員会終了後、ご意見があれば個別に寄せていただき、第6回検討会に向けての参考とさせていただく予定です。

(2) 第6回行政評価検討委員会において

第5回検討委員会の議論を踏まえて、事務局で政策評価システムに関する案（たたき台）を提示し、更に議論を重ねてシステムを完成させる。

以上のように考えております。

（参考）これまでの議論の整理

（7月17日送付資料「検討のねらい（望まれる成果物）についての補足説明」より）

平成12年度に策定した「21世紀ビジョン」及び「基本計画」における政策・施策を確実かつ有効に推進していくために政策評価を導入し、政策・施策の効果測定、公表、区民参加を促進していくシステムとしたい。

政策評価は、（行政の使命を具体的な形に整理した政策・施策の評価を行うため、様々な個々の実行手段としての事務事業の評価以上に、）区民の参加と協働のためのコミュニケーション・ツールとしたい。

政策評価は、計画レベルにおいて、一定の基準、指標をもって政策・施策の体系の妥当性、達成度や成果を判定する評価手法としたい。

杉並区がこれまで進めてきた事務事業評価とともに、杉並区に適した総合的な行政の評価の理念と仕組みをつくるため、政策評価のあり方を検討したい。



目的：1) 「21世紀ビジョン」及び「基本計画」における政策・施策を确实かつ有効に推進していくため

2) 杉並区に適した総合的な行政の評価の理念と仕組みをつくるため

内容：1) 政策・施策の効果測定³⁾が具体的内容、公表、区民参加を促進²⁾が具体的内容 していくシステム

2) 区民の参加と協働のためのコミュニケーション・ツール

3) 一定の基準、指標をもって政策・施策の体系の妥当性、達成度や成果を判定する手法

3. ベンチマークの位置付け

(第2回検討委員会資料2「杉並区ベンチマークの性格」(議論素材としての素材)より)

(1) 位置付け

(ア) 政策評価の主要要素として、基本構想、基本計画のビジョンの達成度を測定する。

(イ) 政策評価 施策評価 事務事業評価の三段階構成のうち、事務事業評価の指標、施策指標と体系化、連動して、政策評価を行う目安としての政策指標とする。



すなわち、杉並区ベンチマークは、政策評価の内容3)のための指標として位置付けられる。

政策評価システムは、「21世紀ビジョン」及び「基本計画」における政策・施策を确实かつ有効に推進し、かつ杉並区に適した総合的な行政の評価の理念と仕組みをつくるために導入し、区民の参加と協働のためのコミュニケーション・ツールであり、一定の基準、指標をもって政策・施策の体系の妥当性、達成度や成果を判定する手法である。ベンチマークは、そのための指標である。

第 4 回行政評価検討委員会の主な発言

小委員会の検討報告

- ・ 杉並区の政策指標の特徴は、その数を集約し、区民の行政に期待する領域に分けて整理したことだ。
- ・ できる限り、数をしぼる中で、大指標と中指標を設け、大指標を更に数を絞っている。
- ・ 小委員会の指標の整理の中で、間違いなく指標の数値が毎年取れるかどうかという作業が事務局の方で残っている。
- ・ 指標の候補は、区民に示して整理していくため、やや多めに掲げてある。
- ・ 指標の最終構成と名称の検討は、詰めきれなかったので全体委員会に委ねる。
- ・ 委員会の検討案とした後で、区民に委員会の案として示し、アンケートを取る。

小委員会案に対する小委員会委員の個人的補足、追加意見

- ・ 小委員会案をベースに、その指標の見せ方という点で、「杉マル(○)星取表」の案を追加補足的な案として個人提案したい。
- ・ 杉マル星取表の案は、中学生でもわかるように、関心をもってもらいやすいという視点で整理した。
- ・ 同時に、分野の名称をできる限り具体的にイメージできるもの、端的なものとして提案したい。
- ・ ベンチマークを区民に示すときに、ベンチマークは、行政評価システムの一部であることをよくわかるように示してほしい。
- ・ ライフサイクル別評価という見方も、評価をわかりやすくするのではないか。

議論

- ・ 仮称ベンチマークは、非常に限定した目的であって、最終目標という形は難しく、杉並区がいい方向に向かっているかどうか方向性を見出して、その問題点はどこかということで、政策評価・行政評価に結び付け、改善を行っていくものであると考えている。行政ウォッチャーの手がかりにしたいと考えている。
- ・ 区民がそういうことをやったら将来に希望がもてるいい区になるなど、そういうことに重点を置いて指標を作るのがいい。
- ・ 「自立」は「自律」と死体。
- ・ 「女性参画」「若者をひきつける」という考え方で、それ以外のものに対する考え方が必要。
- ・ 指標の数字を毎年、定期的に取り。それがある程度安定して信頼性がある、という事で整理する必要がある。
- ・ A、B、C・・・は、順位付けはないが、A～EをFが支える構図になっている。これをアンケートでは説明してほしい。
- ・ 大指標、中指標という階層性は、説明しにくく、基本指標と重点指標のような整理がわかりいいのではないか。
- ・ 指標の中に、他都市との比較、継続させて比較するという視点を最初から意識しておく必要がある。
- ・ 名称については、星取表も入れて、5つの候補等から杉並区の方で整理して出す。
- ・ 最終的な整理は会長に一任いただいて取りまとめる。